

12 新潟の畜産はどうなっているの?

新潟県の畜産は、県全体の農業産出額のうち15%を占めています。

昔は、ほとんどの農家で農耕用に牛、自家用にわとり、ぶたなどの家畜を飼っていました。昭和30年代に肉や乳製品の消費が増えはじめると、畜産を専門的に行う農家が多くなりました。最近では、農家の数は減ってきていますが、農家1戸あたりが飼育する家畜の数は昔よりずっと多くなっています。

畜産農家は良い品質の畜産物をつくるため新しい飼い方を取り入れるなどの工夫をして、みなさんに安全でおいしい畜産物をたくさん食べてもらえるよう努力しています。

また、家畜のふんや尿は肥料づくりに使われて、おいしい米や野菜の生産に役立っています。

また、県では「にいがた和牛」などのブランド畜産物にも力を入れています。

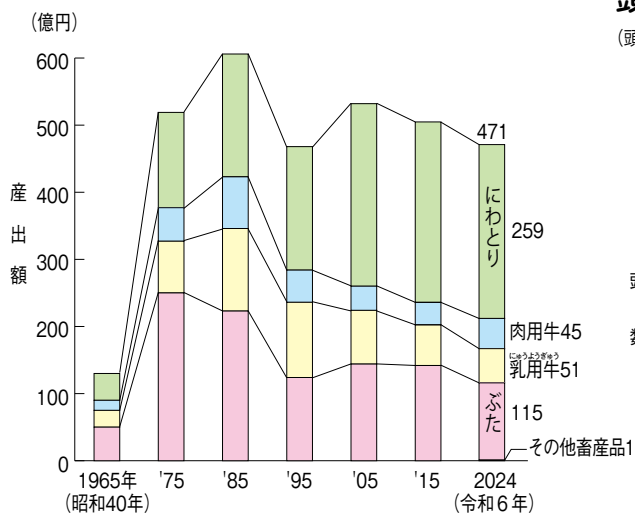
● 県内で飼われている家畜の数 (令和6年2月1日現在)

(単位:戸・頭・羽)

区分		戸数	飼われている数	1戸あたりの飼われている数	飼われている数の全国順位
乳用牛	新潟	133	5,050	38	29
	全国	11,900	1,313,000	110	
肉用牛	新潟	176	12,000	68	35
	全国	36,500	2,672,000	73	
ぶた	新潟	71	133,400	1,879	20
	全国	3,130	8,798,000	2,811	
にわとり(卵)	新潟	32	2,603,000	81,300	19
	全国	1,640	129,729,000	79,100	
にわとり(ブロイラー)	新潟	10	1,201,000	120,100	20
	全国	2,050	144,859,000	70,700	

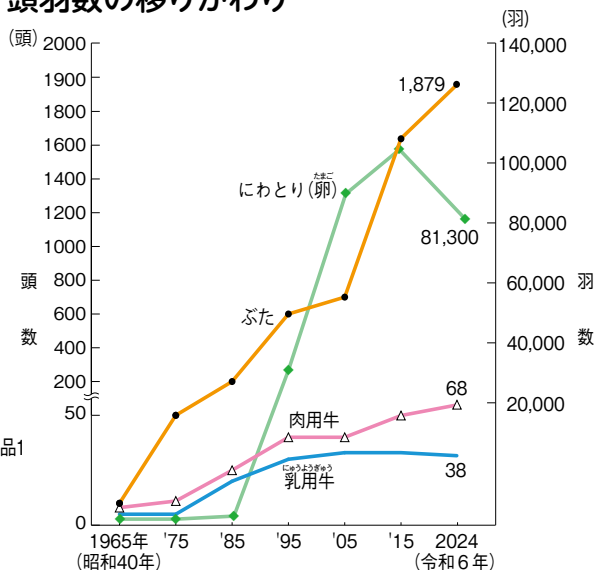
農林水産省「畜産統計」

● 畜産産出額の移りかわり



農林水産省「生産農業所得統計」

● 畜産農家一戸あたりで飼育する家畜の頭羽数の移りかわり



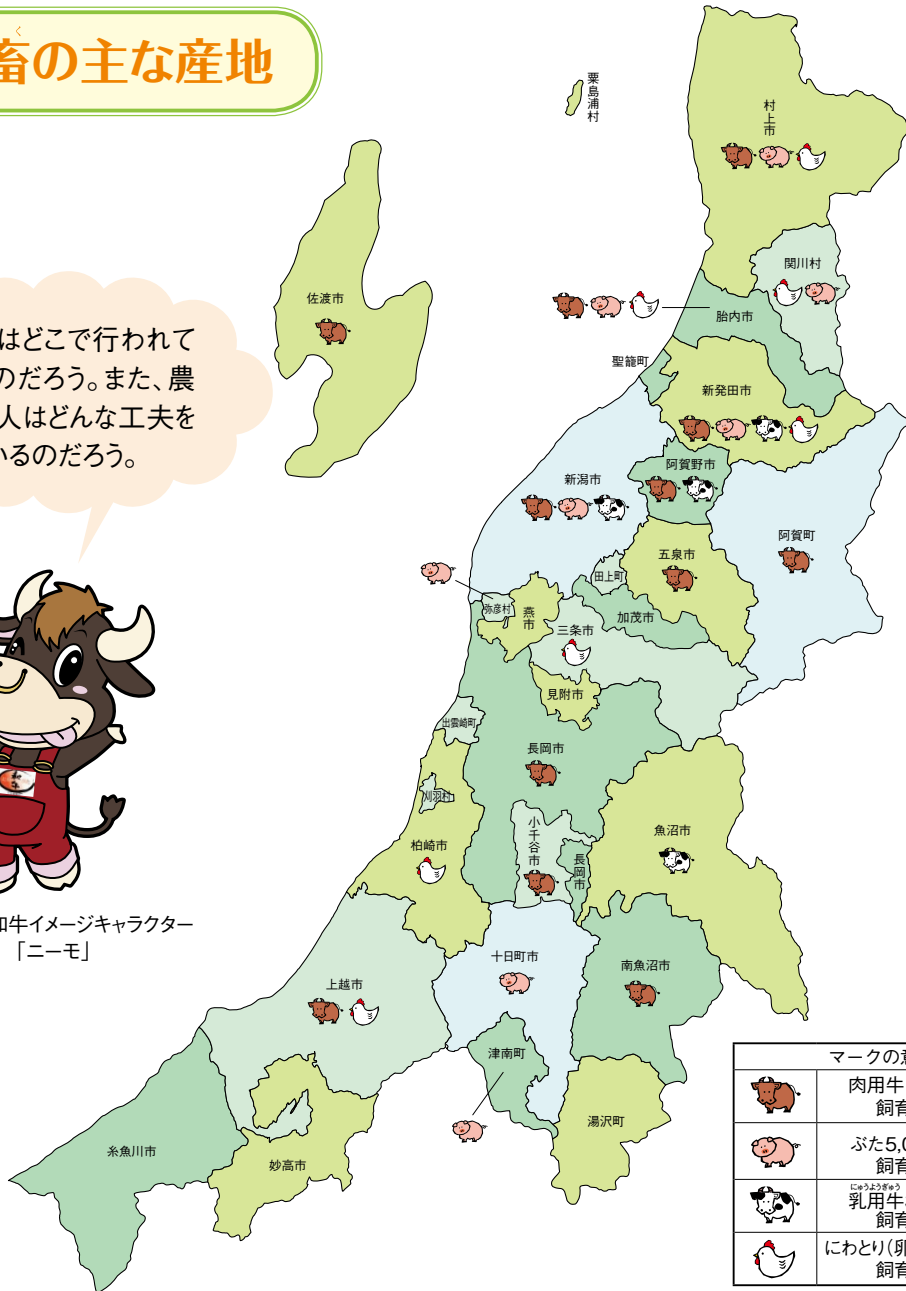
農林水産省「畜産統計」

かちく 家畜の主な産地

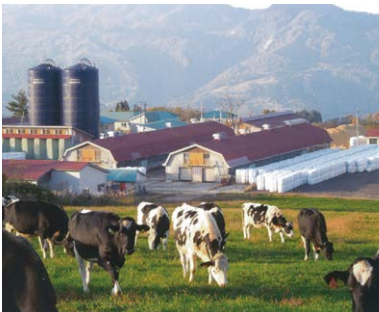
ちくきん
畜産はどこで行われているのだろう。また、農家の人はどんな工夫をしているのだろう。



にいがた和牛イメージキャラクター「ニーモ」



マークの意味	
	肉用牛150頭以上飼育市町村
	ぶた5,000頭以上飼育市町村
	乳用牛300頭以上飼育市町村
	にわとり(卵)10万羽以上飼育市町村



▲〈新潟県妙法育成牧場・津南町〉
夏に涼しい環境で、健康に乳をたくさん出す乳用牛を育てています。



▲〈にいがた和牛の飼育〉
おいしい牛肉になるように、コシヒカリの稲わらを食べさせ、愛情を込めて育てています。



▲〈飼われている子ぶた〉
安全でおいしい肉になるよう、適正な管理をして育てています。